

校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定の考え方

H29.9.19 教職員課

1 背景

国では、教員の大量退職、大量採用の影響により経験の浅い教員が増加することから、教育公務員特例法等を一部改正し、教員の資質向上に係る新たな体制を構築することとしている。

この取組みのひとつとして、「校長及び教員の資質の向上に関する指標」（以下「指標」という。）を全国的に整備することとしており、本県でも指標の策定を進めているもの。

2 県教委のこれまでの教員育成の考え方

少子高齢化や人口の減少、地方分権の進行など、社会の動きが大きく変化している中で児童生徒の学力向上、いじめや不登校への対応など、本県の教育を取り巻く環境が多様かつ複雑になってきたこと、さらには不祥事や指導力不足教員の問題などが指摘される中で、教員の資質能力の一層の向上を図る必要が生じた。

このため、県教委では、「教職員の人材育成に関する検討委員会報告（平成17年3月）」（以下「報告」という。）をまとめ、研修を進めてきた。

この報告においては、経験年数に応じた段階（ライフステージ）ごとに教員に求められる資質能力として「ライフステージに応じて求められるもの」を定め、また、この求められるものは、「学習指導」、「生徒指導・生活指導」、「学校運営への関わり」、「教員としての使命感や責任感」の4つの視点から定めている。

3 本県教育を取り巻く環境変化への対応の必要性

（1）学習指導、生徒指導のさらなる強化

少子化による学校統廃合・学級減への対応、少人数学級の推進による学力向上の取組やいじめ・不登校への取組などを通じ、豊かな心を育む教育がさらに必要となっている。

（2）復興教育、産業教育に必要な人材

東日本大震災津波による甚大な被災からの復興や、そのための産業の育成に必要な人材も求められている。

（3）特別支援教育への転換、マネジメントの必要性

特殊教育から特別支援教育への転換が進むとともに、「チーム学校」など、家庭や地域と連携しながら学校経営を推進し、子どもを育てていく必要性が極めて高くなっている。

（4）環境変化を踏まえた資質の向上

このように本県の教育を取り巻く環境は大きく変化しているが、本県においても、教員の大量退職の時期を迎えており、今後、経験の浅い教員が増えていく中で、これらの様々な課題に対応できる力強い教員を育成していくため、その資質の向上をさらに図っていくことが喫緊の課題となっている。

4 指標の内容を定める際の考え方

本県のこれまでの教員育成の考え方を踏まえ、報告における「ライフステージにおいて求められるもの」と4つの視点を基にしながら、「ライフステージ」に「採用時」の段階を加え、「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指針」（以下「指針」という。）に定められている事項、岩手の教育の特徴に関する事項などによる視点なども踏まえ、指標を作成することとしている。

(1) ライフステージ（横軸）について

ア 採用時

教員に求められる採用時の資質を明確にするため、第1のライフステージを「採用時」とする。

イ 基礎の形成期、実践的指導力の向上期、実践的指導力の充実期

採用後の「基礎の形成期」、「実践的指導力の向上期」、「実践的指導力の充実期」のライフステージはそれぞれ5年間の期間とし、求められる資質をきめ細かに定めることとする。

ウ ミドルリーダーとしての指導力発揮期、総合力の発揮期

「実践的指導力の充実期」を経た後の「ミドルリーダーとしての指導力発揮期」（10年間）、「総合力の発揮期」（13年間）のライフステージとし、ミドルリーダーなどとなった教員に求められる資質を定めることとする。

エ 校長

学校の組織リーダーとして、教員の人材育成について、大きな責任と役割を担っている「校長」に求められる資質を別に定めることとする。

〔ライフステージ〕 ※網掛け（「採用時」及び「校長」）以外は報告と同じ。

- ・採用時
- ・基礎の形成期（5年間）
- ・実践的指導力の向上期（5年間）
- ・実践的指導力の充実期（5年間）
- ・ミドルリーダーとしての指導力発揮期（10年間）
- ・総合力の発揮期（13年間）
- （・校長）

(2) 視点（縦軸）について

ア 学習指導、生徒指導、マネジメント、使命感、責任感、倫理観

県教委において定めている「岩手の教員に求められるもの」を参考として、「学習指導」、「生徒指導」、「使命感、責任感、倫理観」を視点とするとともに、学校経営、学年経営、学級経営などを通して「学習指導」、「生徒指導」などを行うものであることから、「マネジメント」の視点を加える。

イ 総合的な人間性

教員は、児童生徒に学習指導をするだけでなく、社会のルールやマナーを教える立場でもあり、児童生徒の手本となるとともに、児童生徒から信頼される存在であることが望まれるものであり、また、社会が大きく変化していく中で様々な課題に臆することなく取り組む姿勢が必要であることから、それらを踏まえ、「総合的な人間性」の視点を加えることとする。

ウ 復興教育、キャリア教育、特別支援教育

プログラム、指針等に基づき、県教委においては、「復興教育」、「キャリア教育」及び「特別支援教育」の推進に取り組んでいることから、「復興教育」、「キャリア教育」及び「特別支援教育」を新たな視点として設けることとする。

〔岩手の教員に求められるもの〕

- 分かりやすい授業ができ、児童生徒に確かな学力をつけることができること
- 児童生徒に対する愛情を持ち、一人ひとりの児童生徒と真剣に向き合うことができること
- 豊かな人間性を持ち、幅広い教養と良識を身につけていること
- 教員としての使命感や責任感を持っていること

〔視点（教諭）〕 ※網掛けは報告に追加・新設するもの。

- ・学習指導
- ・生徒指導（教育相談を含む。）
- ・マネジメント
- ・使命感、責任感、倫理観
- ・総合的な人間性

- ・復興教育
- ・キャリア教育
- ・特別支援教育

（3）視点内の項目について

本県の教育現場の現状を踏まえた上で、指針で定める観点、他県の状況などを参考にして、本県の指標として必要な項目を選定するもの。

〔視点内の項目（教諭）〕 ※（）書きは根拠となるもの。

- ・学習指導－わかる授業
- ・生徒指導－生徒指導（報告、指針）、教育相談（指針）
- ・マネジメント－学級、学年経営（報告、指針）、学校組織の一員としての取組み（報告、指針）、学校保健、学校安全（学校安全は指針）、家庭や地域社会、関連機関との連携協働（報告、指針）
- ・使命感、責任感、倫理観－使命感、責任感（報告、指針）、倫理観（指針）
- ・総合的な人間性－自ら学び続ける意欲（指針）、コミュニケーション（指針）、豊かな人間性（報告、指針）、人間的強さ

（4）本県教育の特徴等

ア わかる授業

県教委では、「わかる授業」の実現に向けた取組みを進めていることから、視点内の項目として、「わかる授業」を設け、「いわての授業づくり3つの視点」、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、「カリキュラムマネジメント」などに係る指標を定めることとする。

イ いわての復興教育

将来の岩手を担う人材を育成するため、「いわての復興教育」に取り組んでいることから、復興教育に係る指標を定めることとする。

ウ 養護教諭及び栄養教諭の指標

教諭の指標を踏まえ、養護教諭及び栄養教諭（校長の指標は教諭と同じであるので、表示を省略）についても指標を定めることとする。

5 今後の検討事項

事務局において次の事項について検討を行い、第3回育成協議会において協議する予定である。

- ・指標内容の精査
- ・指標の運用方法
- ・指標の見直しの時期 など